

第5回大阪府環境審議会環境総合計画部会の概要

日 時：平成22年3月25日(木)14:00～17:00

場 所：大阪赤十字会館4階 401会議室

資料1（環境総合計画部会報告素案）について審議を行った。

各委員からの主な意見は、以下のとおり。

（全体）

- ・専門的用語が多いので、解説が必要。
- ・「主体」という言葉はお役所言葉でわかりにくいのではないか。

基本となる視点

- ・生物多様性の脚注は、生物多様性条約の第2条を写せばいい。
- ・消費行動が府民の力である。消費者の価値観の転換が社会のあり方を変える力になる。
- ・環境教育にもふれて内容を充実してほしい。
- ・NPOに属さない人もたくさんおり、市民活動とするべきではないか。
- ・NPOという言葉は、一般的に普及しているので入れてもよいのではないか。
- ・食の安全と農薬の問題についても触れる必要があるのではないか。
- ・「3Rを中心とした」ではなく「3Rを踏まえた」に変えた方がよい。また、3Rには言葉・自体に優先順位がある。

計画の枠組み

- ・図の「実行計画」とあるのは「行動計画」とした方がよい。
- ・図に短期目標は入れないのか。

目標設定の考え方

- ・将来像の「豊か」はいらぬのではないか。
- ・自然に恵まれて暮らしを楽しむような持続可能な環境先進都市とか、暮らしとかそういうところが将来像としてよいのではないか。
- ・環境先進都市というのは、言ってみたい。
- ・新エネルギーとなると、自然エネルギーだけになってくる。

施策の展開のあり方

- ・4つの基本方針はキーワードとする。
- ・地域主権・広域連携でもっと大阪府がイニシアチブを取るかたちで記載出来ないか。
- ・琵琶湖・淀川流域での取り組みについて具体的内容を記載してほしい。
- ・例えば「生き物のにぎわう自然環境」などのフレーズを入れてほしい。
- ・里地里山の用語説明で、現在の記述では森に囲まれて集落があるようなイメージになるため、違う気がする。
- ・健康・魅力で「食の安全」や「大阪もん」なども入れ込んでほしい。
- ・環境配慮への動機付けで、大阪人気質についてももう少しまい記述にしてほしい。
- ・「適切に手法を組み合わせ」について、具体的な手法の例示がない。
- ・「エコカーの普及」「公共交通機関を軸とする」「都市構造の転換」それぞれの関連が曖昧。